



研究授業が目白押し—授業改善に取り組んでいます—

毎年この時期になると、各学校で様々な研究授業が行われます。

今年はコロナ禍の影響で規模を縮小しながらではありますが、授業改善に向け、粛々と取り組んでいます。二中でも、先日二つの授業が公開されました。

一つ目は、人吉市立教育研究所学力向上部会の取組で、1年4組の数学（鬼塚貴臣教諭）の授業でした。



みんなの作図を重ねて宝探し（数学）

数学で学習した作図の技能を活用して、教室内に隠された宝物を探すという授業でした。

二つ目は、人吉市中学校英語三校合同研修会として、1年2組の英語（今村恵里子教諭）でした。

“Where is the～?”（～はどこにありますか？）という表現を活用し、教室内に隠された宝のありかを探すという授業でした。



対話を繰り返しながら宝探し（英語）

図らずも、二つの授業が「宝探し」の形式になりましたが、両方とも、学習した内容を適切に活用しないと宝物にたどりつかないよう仕掛けがしてありました。

そんな仕掛けの効果により、座って話を聞くばかりではなく、自ら主体的に課題に取り組み、他の人と対話を繰り返しながら学びを深めている姿が見られました。この姿こそが、新しい教育課程の方向性であり、本校が目指す生徒像でもあります。

今後も、そうした姿がたくさん見られるように、先生たちも授業改善に取り組みますので、生徒の皆さんも、一緒になって学習に頑張ってくれることを期待しています。

密を避けるために—スノコが完成—

4時間目が終わると、1階にある給食デポの周りは給食当番で大混雑します。特に、狭いブリッジを渡るときには、



行きはブリッジ、戻りはスノコを渡る

取りに行くクラスと、戻るクラスが交差するため、かなりの渋滞が起こります。

それを回避するため、プロティにスノコを敷こうということで、以前から製作を進めていました。

製作に関わったのは、3年生男子の有志4人です。毎日、昼休みには技術室にこもり、熱心に製作に取り組んできました。



製作者の4人と完成したスノコ

水害もあり時間がかかりましたが、この度ようやく完成しました。これから長く使い続けられることになると思います。製作してくれた皆さんに感謝です。